

# 報 告 書

開催日時	平成26年5月16日（金） 19時00分 ～ 20時35分	
開催場所	市役所4号棟 3階会議室	
出席議員	挨拶 佐藤信一	
	司会進行	菅野広紀
	報告者	佐々木一義
	記録者	菅野 定、伊勢 純
	議員	伊藤明彦
参加人数	9 名	事務局 1 名
主な要望 ・ 提言等	<p>○竹駒地区の国道 340 号線の渋滞解消の工事の進行状況はどのようになっているのか。廻館橋付近の交差点に信号機がいつ設置されるのか。</p> <p>○土地区画整理事業でのかさ上げ部において、庭石は新しい自分の土地等に移動してもらえるのか。石碑等は保存することができないのだろうか。</p> <p>○今後、当市が財政破たんをしないで、市民が安心して老後の生活ができるように今から考えてほしい。</p> <p>○将来の陸前高田市の進むべきビジョンを示してほしい。</p> <p>○新しい発想のまちづくりを目指してほしい。</p> <p>○昨年の事業予算で消化できないで繰り越された予算があるのか。今後、それはどのようになるのか</p> <p>○借金を小さくするのは良いことではあるが、未来への投資は起業できる人間を育てるために大切と思うので、未来への投資の借りをどのように考えるのか。</p> <p>○不登校の子どもたちが、立ち直るきっかけとなる参加しやすい教育の場を考えて欲しい。</p> <p>○子どもたちや興味のある市民の方々に、市民講座など勉強できる場を広く増やして欲しい。たとえ生徒数が少なくても応援するのが大切だ。</p> <p>○市内には講師となる才能のある年配者が多数居住している。それで、そのような方々の協力を得ながら、教育の豊かなまちにできないのだろうか。</p> <p>○生徒が少なくなっている現状から、今からでも、少人数の生徒でも対応ができる充実した教育を考えて欲しい。</p> <p>○発達障害の子どもたちを支えるため、5歳児検診を実施することで、子どもたちが教育や指導がうまく受けられるような環境にして欲しい。</p> <p>○今よりもさらに、子どもを産み育てやすい環境にして欲しい。</p> <p>○市長と語る会にお年寄りと話し合う企画をして欲しい。</p>	

	<p>○若者が喜んで働く新しい事業、会社を誘致するなどして欲しい。</p> <p>○産業を作り育てて欲しい。</p> <p>○復興記念公園の区域内に残す震災遺構の建物について、検証委員からの意見を取り入れるのは大切ですが、広く市民の方々からの意見も聞き、より良い祈念公園にして欲しい。</p> <p>○旧気仙中学校では津波避難訓練を毎年実施していたので、生徒に犠牲者が出なかった。しかし、旧気仙中校舎は震災遺構にふさわしくないと思う。</p> <p>○津波避難のできる建築物(避難塔)を造ったら良いのではないか。</p> <p>○議員がそろって、公式に仮設住宅に足を運び、被災者の意見、要望を聞いてほしい。</p> <p>○陸前高田市が積極的に修学旅行などの観光ツアー客を呼び込めるように、安全安心な観光ツアー計画を立てやすくし、来市した観光客に喜んでもらえる環境を作って欲しい。残念ながら、現在、心無い一部の市民により、当市を訪れた方々に対しての暴言や暴力などの問題が生じている。</p> <p>○市役所の建設計画はどのようになっているのか。</p> <p>○議会報告会は今後、お年寄りが参加しやすいように昼の時間帯に開催するとか、仮設住宅を会場にするとか、人が集まりやすい日程を選択するなどの工夫をして欲しい。</p> <p>○結婚祝い金、長寿の祝い金があっても良いのではないか。</p> <p>○震災検証書報告書はいつごろ完成するのか。また、議会ではどのように対応しているのか。</p> <p>○都市計画によるかさ上げの場所に市民が家を建てる人がいるのか。</p> <p>○メガソーラーの太陽光発電計画はどの様になっているのか。</p>
<p>所 感</p>	<p>○伊勢 純</p> <p>幅広い世代からのさまざまなご意見が出された。</p> <p>5歳児検診の導入によって、就学前の段階で個々に応じた支援や可能性の追求ができるという有識者による本市へのアドバイスを紹介しながら、その実現を要望するご意見には、本市の子育てや教育を前進させるひとつの方法だと思った。</p> <p>また、被災地である本市の市民がボランティアを受け入れる際の姿勢について、一部において深刻な問題が発生している事例のご指摘もあり、改善が望まれる。</p> <p>今後の議会報告会について、仮設住宅や昼の時間帯での開催を望むご意見もあり、これは実現に向け、具体的に検討していくことが必要だと思った。</p> <p>○菅野 定</p> <p>今回、報告会の参加者が少なかったことがとても残念でなりません。市民からすれば、私たちの議員活動がまだまだ足りないとか、市民の期待に応えた活動や成果がうまく伝わっていないのではないのかと自分自身に投げかけ</p>

反省した。

市民は復旧・復興と進んできたことを理解しつつも、ここに来て、将来の陸前高田市の行く末を心配している。また新しい企業や産業が生まれ育って、将来を担う若者が地元で定着できるようになることを期待している。

今まさに、真剣勝負で臨む地元企業が永続して当市を支えていけるように、また新旧の産業が育ち発展していけるように、これからの新生陸前高田市のビジョンを描かなければならないと強く決意した。

○菅野 広紀

高田町のコミュニティは被災状況から今後の再構築が急務と感じた、ことにも津波で被災した文化財（石碑等）の今後の対応については、出来ればコミュニティで協議し方向性を示して欲しいと感じた、そのサポートをするのも議会や議員の役割ではないか。

将来財政見通しについての質問には、現在の指標は改善されている面と、こん後の市税収入の不透明な状況が指摘された。

○伊藤 明彦

税収の伸びが期待できない中、復興後の財政問題をどう考えるか。被災、流失した石碑などの文化財の保存について、そのまま埋めてしまうのは忍びない。

○佐々木 一義

来る財政難に議員はどのように考えているのか。不登校の子どもや、障がいを持った子どもへ新しい発想を持って育てることを考えてみてはどうか。市長は子どもや若い人との対話をするが、故郷を思う老人もいることを知ってほしい。文化財指定されていない大きな遺跡を市はどのようにしていくのか。

議会報告会を仮設住宅集会所毎や、昼間に開催をし、市民の声を多く聴いて市政へ反映させてほしいとの意見がありました。

商業者、農業者はじめ多くの市民が住まいしている高田町の議会報告会にも参加者が少ない状況を見、早急に原因分析し検討していくことの必要性を感じた。

○佐藤信一

復興予算の使いみち、復興後の市の財政についての質問のほか、働く場所をつくり、雇用の確保をして、人口流失を防いでほしいなど、色々な意見が出された。

また、343号線の改良に伴う交通渋滞にならない対策も多く出された。しめくくりの報告会として、活発な意見交換がなされた。

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 松田 信之 殿

平成26年6月6日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成26年度議会報告会産業建設班

班長 佐藤 信一 ⑩